

認定 NPO 法人
アジア車いす交流センター(WAFCA)

〒448-0834
愛知県刈谷市司町 1-2
ふれあいプラザゆうきそう

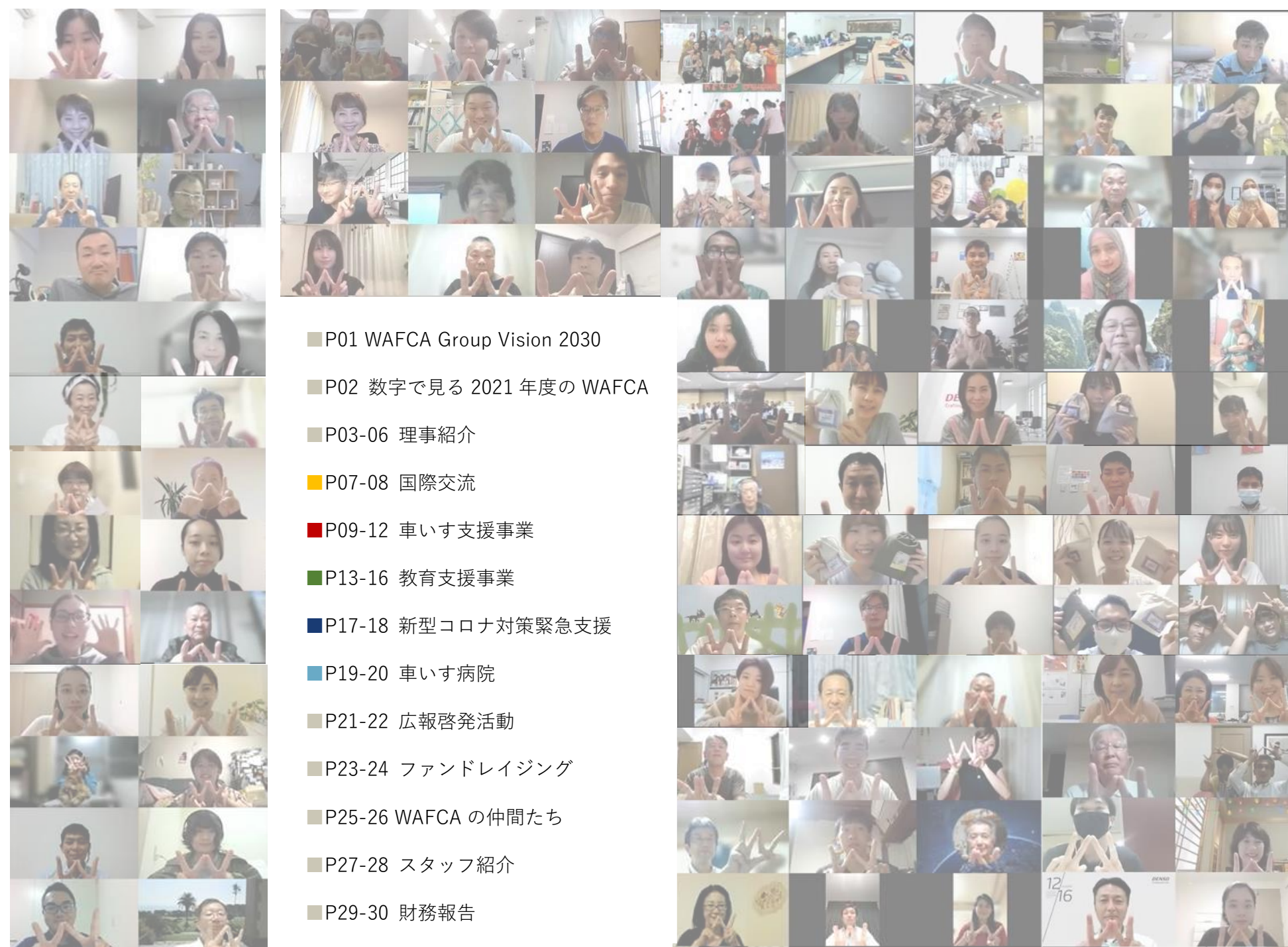
TEL : 0566-23-5822
FAX : 0566-23-5827
MAIL : contact@wafca.jp

ページ番号デザイン：リオ
(P.6 WAFCA 造形クラブの記事参照)

URL : <https://wafca.jp/>



WAFCA ANNUAL REPORT 2021



- P01 WAFCA Group Vision 2030
- P02 数字で見る 2021 年度の WAFCA
- P03-06 理事紹介
- P07-08 国際交流
- P09-12 車いす支援事業
- P13-16 教育支援事業
- P17-18 新型コロナ対策緊急支援
- P19-20 車いす病院
- P21-22 広報啓発活動
- P23-24 ファンドレイジング
- P25-26 WAFCA の仲間たち
- P27-28 スタッフ紹介
- P29-30 財務報告

WAFCA Group Vision 2030

WAFCA は障がい児一人ひとりに寄り添い、
自立へ導く実効性のある環境作りに取り組むことによって、
障がい児のレベルに応じた自立と生活の質の向上を実現します。

実現に向けて —私たちの活動の4本柱—

1 海外での支援活動

WAFCA の強みである総合的、継続的支援を着実に推進
▶多くの障がい児が一人ひとりのレベルに応じた自立を実現

2 日本と海外の交流

日本と海外および海外現場間の交流を定期的かつ活発に促進
▶①相互理解と支援レベル向上 ②各国で WAFCA への共感拡大





3 活動財源の確保

幅広い資金調達の仕組み、仕掛けを構築
▶国内外の活動を行うための財源を安定的に確保

4 活動エリア

タイ、中国、インドネシア+東南アジア1か国で活動を推進
▶アジア社会の中の WAFCA 活動への認知・共感が拡大

中期計画（2020～2022年度）・・・各国の課題と重点取り組み事項

- | | |
|---|---|
|  タイ | <ul style="list-style-type: none"> ① 車いすサービスセンター運営の安定化 ② 特殊教育センターの職員（理学療法士）とのネットワーク強化とスキルアップ（P5） |
|  中国 | <ul style="list-style-type: none"> ① 事業の見直し（車いす寄贈を中止、奨学金支援と交流プログラム実施に資金を集中）（P16） ② 活動許可に関する情報収集 |
|  インドネシア | <ul style="list-style-type: none"> ① 支援対象地域の拡大（5県⇒8県）（2020年度） ② 車いすの安定した調達とプロバイダーの育成（P11） |
|  日本 | <ul style="list-style-type: none"> ① 青少年リーダーシップ・プログラム（YLP）の立ち上げと安定した資金調達
▶コロナの影響で延期中 ② プロジェクト・マネジメントのスキルアップ |

数字で見る

2021年度のWAFCA

寄贈した車いすの台数 ▶詳しくは P.9~

奨学生の人数 ▶詳しくは P.13~

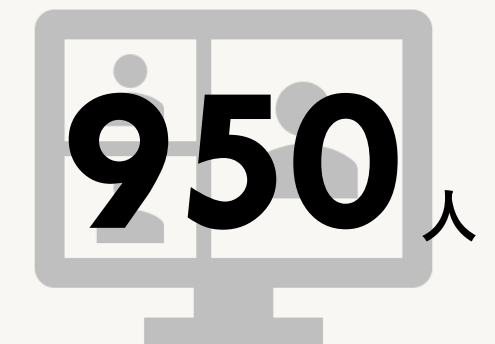


完成したバリアフリー工事の件数

WAFCA 主催
オンラインイベントに参加した人数

▶詳しくは P.10~

▶詳しくは P.7~



寄付総額 ▶詳しくは P.30~

会員数（個人・団体） ▶詳しくは P.25~

¥30,874,613

2,544 人

理事改選のご報告と挨拶

2021年度定期総会では、理事の改選が行われました。

理事長の榎田勝利さん、副理事長の小松諄悦さん、理事の楊衛平さんは任期満了につき退任となりました。そして新たな理事長として寺田恭子さん、副理事長は佐藤久美さん、加藤晋也さんの2人体制で選任されました。

WAFCAの役員体制は設立以来の大きな変化を遂げました。今後も“アジアの障がい児の尊厳と機会が損なわれないバリアフリー社会を実現する”をミッションに掲げ、WAFCAは進んで参ります。

WAFCAのあるべき姿とは ー障がい児の今と未来を考えるー

2020年早春から繰り返される新型コロナウイルスの猛威は未だ収束の兆しが見えず、世界中に多大な影響を与え続けています。しかしWAFCAはこの現状下でも車いす寄贈に加え、更なるチャレンジを続けてきました。特に最も深刻な影響を受けている障がい児に対し、WAFCAグループは一丸となって障がい児緊急支援を継続しました。皆が辛い状況にある中で、弱い立場に置かれている障がい児の“今と未来”を考える多くの人たちの輪が国境を越えて繋がり、今年度も寄付目標を達成しました。

また、車いす病院の活性化、SNSでの勉強会や交流会、チャリティイベントやグッズ販売等にも力を入れ、さらに「車いすサービス・プロバイダー人材育成事業」にも取り組みました。そして車いすダンス・グローバル・フェスティバル2021では、タイ・インドネシア・日本の44チームが参加し、新しい国際交流のあり方を実現させる一歩を踏み出すことができました。世界情勢が時々刻々と変わる中でも、私たちはグローバルな視点を常に持ち、自らのミッションを実行できる組織でありたいと思います。

WAFCAのあるべき姿は、「現地の人々の力を信じ、彼らの声に耳を傾け、寄り添い、共に問題解決の方法を探って支援し続けること」これは前理事長である榎田勝利先生のお言葉です。2021年度より榎田先生の後を継いだ私は未熟ではありますが、この“WAFCAのあるべき姿”を忘れずに、これからのWAFCAを皆様と共に創造していきたいと考えています。皆様のお力添えに改めて感謝申し上げますと共に、今後ともWAFCAを宜しくお願いいたします。



WAFCA 理事長 **寺田 恭子**
桜花学園大学 保育学部 教授



デンソーから社会に提供できる価値の最大化を図る



2021年度より、副理事長としてWAFCAの運営に携わることになりました。私は、株式会社デンソーの総務部長としての役割もあり、二つの役割を掛け合わせることで、社会に提供できる価値を最大化していきたいと考えております。

1台の車いすで、タイやインドネシアの障がい児が外出できるようになる、学校にも行ける、仕事にも就くことができる、まさに人生の可能性を広げる活動に取り組んでいる、私にとって、WAFCAの活動はそう実感できるものでした。

1949年に創業したデンソーは、これまで社会・地域という土壌の中で、大きく育てていただき、35の国・地域で200拠点を構えております。今、世界各地の土壌が水や栄養を必要としているのであれば、今、まさに恩返しの時と考えております。

20年超に亘ってWAFCAを育ててこられた諸先輩方・会員の皆様に心から敬意を表するとともに、受け継いだ襷を進化させ、確実に次世代につないでいく、そんな気概を持ってWAFCAの活動に取り組んで参ります。

WAFCA 副理事長 **加藤 晋也**

株式会社デンソー 総務部 部長

仲間とともにSDGsの達成を目指して



2021年度より、副理事長に就任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。勤務する大学では「多文化共生社会」、「地域共創デザイン」などの授業を担当しており、地域や社会の課題をデジタル技術で解決する方法について学生たちと考えております。

2015年9月に国連でSDGsが国際目標として採択され、約6年が経ちました。日本でも様々な主体によるSDGsへの取り組みが進み、その認知度と重要性も広く認知されるようになってきました。

SDGsで設定されている「3. すべての人に健康と福祉を」、「4. 質の高い教育をみんなに」、「10. 人や国の不平等をなくそう」などの17の目標を見てみると、1999年に設立されたWAFCAはいくつもの目標に合致する活動を、タイ、中国、インドネシアと活動地域を広げながら、しっかりと地に足をつけて行っていることが確認できます。

ところで、SDGsの17番目の目標は「パートナーシップで目標を達成しよう」です。愛知県刈谷市のWAFCA事務局がWAFCATやWAFCAIと情報共有をすすめ、寺田理事長のもとでしっかりとパートナーシップを発揮して活動をするためのお手伝いをしたいと思っています。現地の子供たちの笑顔を増やしていきましょう。

WAFCA 副理事長 **佐藤 久美**

名古屋国際工科専門職大学 教授

理事の取り組み

WAFCA 関係者の専門性を高める“内部勉強会”の実施



デンソー太陽株式会社
前代表取締役

岩崎 正

昨年度に始めた“内部勉強会”を紹介します。この勉強会では WAFCA の活動に関わる分野での課題を取り上げ、研究し、意見を交換します。こうすることで見識・知識を広げ、感性を磨き、今後の活動に活かしていければと思います。

一回目は、タマサート大学とユニセフの共同論文、“タイ障がい者給付金の政策実施に関する分析について”を取り上げました。簡単に本論文の論旨を説明した後グループに分かれて議論しました。タイの障がい者の現状に関する意見を日本との比較で話し合い有意義な時間をもてたと思います。

今後も勉強会を続けていきますので、取り上げて欲しい議題があれば是非提案ください。会員の皆様の参加もお待ちしています。

現地課題解決のため“車いすプロバイダー研修”の実施

私は本会の理事として、はじめての理学療法士だと伺っています。タイ・インドネシアへ車いすをお渡しした後、利用する子供の成長にあわせたアセスメントと再調整が不十分であり、利用者の継続支援や現地プロバイダーの教育は WAFCA の課題であると伺いました。

そこで 2021 年度には両国の現地スタッフ・事務局との意見交換会・事例検討など複数回行い現状把握を試みました。タイ理学療法士と車いすフィッティングの必要性理解や教育ネットワーク形成の萌芽、インドネシアの深刻なプロバイダーや調整資源不足など、それぞれの現状にわずかながら触れました。



藤田医科大学保健衛生学部
リハビリテーション学科基礎理学療法学講師

都築 晃

インドネシアでは隣家との通路が狭く普通型車いすが通れないという実情には大変驚きました。現地実情を把握して支援を検討する大切さを再認識しました。

今後も定期的事例検討を重ね課題の真因を見極め、利用する子供たちの困りごとを把握し、新たな解決策をチームと共有し協力しながら解決にむけて前進したいと思います。

WAFCA 造形クラブから広がる新たな交流の輪



愛知県立安城特別支援学校
元校長

藤原 孝太郎

2021 年の春、車いす病院の壁画を描いたヒロシくんと新しい仲間のアツキくん、リオさん（本書ページ番号デザイン）と一緒に WAFCA 造形クラブを始めました。3 人は自閉症スペクトラムです。この活動は、障害児者の特性や才能を広く知ってもらうこと、障害のある子供を持つ親のコミュニティを作ることの二つを目的にしています。彼らは独特の感性で人を惹きつける絵を描き、その絵を見た人々は笑顔になります。褒められた彼らは自己肯定感や自信を持つようになってさらに技術を高めます。昨夏には 3 人が協力して WAFCA オフィス前のアーチの壁画も描きました。

3 月のマルシェでは多くの人に造形クラブの活動を知っていただくことができました。これから少しずつ仲間を増やして、地域の子供との交流、タイやインドネシアとの交流を進めたいと思っています。そして地域の障害児者支援の拠点である WAFCA が発信する情報や実施する様々な活動が、共生社会の実現に繋がることを願っています。



日進医療器株式会社から WAFCA へ 151 台の車いすの提供

弊社は様々な車いすを製造しております。在庫置き場などの関係で、新品同様のデモ機などで貸し出した物や、モデルチェンジ前の製品などを、時には処分しなければなりません。私も理事をしていて、アジアに積極的に支援活動をしている WAFCA を通じて、車いす 151 台がインドネシアなど車いすを必要としている方々に、使って頂ける事になりました。心を込めて造った車いすが、海外で有効に使って頂ける事はとても嬉しい事です。今後も続けていきたいと思っております。



日進医療器株式会社
代表取締役

松永 圭司

車いすに関する本を出版しました

車いすに関する書籍は、大半が医学的な物や専門的な内容の物で、一般の利用者が簡単に読める物がほとんどありませんでした。車いす利用者は自分に合った車いすを使用すれば行動範囲は広がり、生活の質も向上します。しかし皆が、必ずしも体に合ったものが使用されている訳ではありません。体に合っていないと座っていても苦痛で、病状などが悪化してしまうこともあります。具体的な事例を中心に分かりやすく書いたので、利用者の車いす選びに少しでも参考になれば嬉しいです。



国際交流活動

2021 年度も一度も海外へ渡航できず、オンラインを活用した交流活動やプログラムに力を入れました。その一部を紹介します！

■車いすダンス

重い障がいがあっても楽しみながら運動効果も期待できる「車いすダンスの可能性」を求めて

WAFCA が車いすを支援している子どもたちの約 6 割は食事や着替えなどに介助が必要な重い障がいがあります。寝たきりだった子どもが車いすに座れるようになるだけでも大きな一歩ですが、車いすで参加できる活動（娯楽やスポーツ）となると、テレビを見る、近所の散歩に連れていってもらいなど非常に限られています。そこで WAFCA は 2017 年からタイ、インドネシアで介助を必要とする子どもたちが家族や先生と一緒に楽しみ、さらに運動効果も期待できる車いすダンスの普及活動に取り組んでいます。2020 年コロナ禍の中でオンラインでも活動をするためにオリジナル講習ビデオを 4 か国語で制作しました。そして 2021 年、講習ビデオを見ながら車いすダンスを練習し、撮影した動画を SNS に投稿するコンテストを開催。日本、タイ、インドネシアから 44 チームがエントリーしました。



12 月に開催した「グローバル・フェスティバル」では、動画コンテストの表彰式やみんなで楽しめるライブパフォーマンスをお届けしました。もともと音楽がかかると自然に体が動いてしまうダンスが大好きなタイやインドネシアの人々にとって車いすダンスは非常に受け入れやすく、子どもが笑顔になるなど効果がわかりやすいため、現地から「もっと車いすダンスを学びたい」というたくさんの声が届いています。



▶グローバル・フェスティバルのスペシャルゲスト天道清貴さんと車いすダンス名古屋ピバーチェの皆さん（12月11日）



■車いす寄贈式

三菱 UFJ 銀行刈谷支店様より 50 万円のご寄付をいただき、25 万円ずつタイ、インドネシアへ支援しました。1 月 26 日、タイのチャチュンサオ県とインドネシアの東ジャカルタ市と中継でつなぎ、オンライン寄贈式を開催しました。

支援内容 タイー新規の車いす寄贈
インドネシアー新型コロナ対策救済物資支援



三菱 UFJ 銀行刈谷支店様よりメッセージ

実際にタイ・インドネシアの現地のみなさまの様子を伺うことができ、この取り組みを行ってよかったと改めて感じております。今回の車いす、支援物資が現地のみなさまにとって少しでもお役に立つことをお祈り申し上げます。



▶三菱 UFJ 銀行刈谷支店様と WAFCA 岩崎理事

■現地報告会



2020 年度に WAFCA の障がい児支援活動に携わってくれたサポーターの皆さまへ 1 年間の活動を報告させていただきました。2 日間で 36 名の方々にご参加いただきました。

WAFCA・WAFCAI の事務所とオンラインで繋いで、現地マネージャーから直接、支援活動の状況などについて報告してくれました。日頃、日本のサポーターの皆さまと交流できる機会が少ない現地のスタッフにとっても、遠く離れた日本からのあたたかい応援の言葉に励まされた様子でした。

車いす支援事業

タイ

タイ政府は、新型コロナウイルス感染状況に関するタイ国内のゾーン区分を県ごとに指定し、各県による具体的な規制を行っています。2021年度はタイ事務局があるサムットプラカーン県に長い間ダークレッド・ゾーン（最高度厳格管理地域）指定が出ていた影響で、WAFCATのスタッフが他県へ出張できない状況が続きました。しかし、特殊教育センターの協力を得て、



車いす申請をすべてオンライン化し、車いすとフィッティングに必要な材料を WAFCAT で一式準備して輸送し、オンラインでフィッティングやフォローアップ調査を行うなど工夫することで、車いすが必要な子どもたち 117 名に確実に支援を届けることができました。

事例紹介

▶ ブライト君とお父さん



ブライトくんの場合

（ブライトくん・サムットプラカーン県在住・11歳） 2021年4月に寄贈

病院から提供された車いすはシートから滑り落ちてしまい使うことができず、息子はいつも床に寝たきりで病弱でした。WAFCA の車いすは長時間座ることができ、息子を散歩に連れ出すことができるようになりました。外で誰かに会うと息子はいつも笑顔になります。肺機能が改善して呼吸がしやすくなり、体調を崩すことが減りました。座った姿勢で食事をしたり、手でおもちゃをつかんだりすることもできるようになりました。

お父さんから
コメントが届きました

車いすサービス提供事業の評価活動

身体に合う車いすを提供した結果、障がい児たちにどのような変化があったか知ることは重要です。そこで、WHOQOL100 調査票を参考に 11 項目（①痛みコントロール、②自己認識、③日常活動、④医療・社会サービス、⑤環境、⑥お金、⑦移動、⑧人間関係、⑨余暇、⑩情報、⑪仕事/勉強）計 40 問のアンケート調査票を作成し、2020年度タイで車いすを支援した障がい児 102 名を対象に 2021年3月に調査、71 名から回答を得ました。そして 2022年3月に再調査を行い、全員から回答を得て変化を比較しました。

まず、全項目の数値の平均値を見ると生活の質が「非常に高い 6 人→4 人」、「やや高い 16 人→17 人」、「どちらでもない 23 人→23 人」、「やや低い 17 人→18 人」、「非常に低い 9 人→10 人」と、あまり変化はありませんでした。

バリアフリー事業



エーくんは新しいトイレを一人で使う訓練中です。今まで家族が介助していた着替えや食事でも自分でやる意欲が湧いたと家族も喜んでいて、1台の車いすから始まった支援の輪でエーくんの成長を支えています。

東北部コンケン県に住むエーくん（7歳）は両脚が麻痺して歩くことができません。2年前に車いすをもらって小学校に入学し、現在は奨学金もサポートして学校に通うことができています。しかし、自宅のトイレは衛生状態が悪く、床は割れたコンクリートむきだし、室内では這って移動するエーくんは膝を怪我することもありました。

そこで、県特殊教育センターと協働してトイレをバリアフリーに改装し、床や通路を舗装して室内にビニールシートを敷きました。かかった費用は材料費の約 10 万円のみで、工事は特殊教育センターの先生や家族、隣人がボランティアで行いました。

トイレ



家の床と通路



項目別では、勉強や就労が「十分にできる/かなりできる 4 人→15 人」、勉強や就労の能力に「非常に満足/かなり満足 5 人→16 人」と改善が見られました。しかし同時に、勉強や就労が「まったくできない」「少ししかできない」を合わせて 2020年度は 44 人、2021年度も 33 人でした。勉強も仕事もあまりできないグループが約半数近くを占めていて、勉強や就労につながるケースは依然として限られています。

その他に改善傾向があった項目は、余暇活動の機会が「非常にある/よくある 11 人→23 人」、リラックスしたり楽しんだりする時間が「非常にある/よくある 13 人→31 人」でした。車いすで家の周りを散歩し、外の風にあたり近所の人と話したりリラックスできるようになったケースであると考えられます。

一方で、日常の身の回りの作業にともなう困難が「非常にある/かなりある 40 人→48 人」、動作の困難が生活に与える支障が「非常にある/かなりある 48 人→55 人」、移動の困難のため生活に支障が「非常にある/かなりある 45 人→48 人」など、回答者の約 7 割が、たとえ車いすがあっても日常生活や移動の困難を抱えたままという実態も明らかになりました。WAFCA がサポートできることは限られていますが、このような実態も踏まえて現地の政府やパートナー団体と協力し、事業を改善していく必要があると考えています。

インドネシア

「脳性麻痺など重い障がいのある子どもたちに車いすを届けたい」

「アダプティブシート」の開発に取り組みました！

WAFCA インドネシア（以下、WAFCAI）に届く車いす申請の6割以上が脳性麻痺など重度の障がいのある子どもたちで、その割合は年々増え続けています。彼らには姿勢（座位）を保持できる子ども用の特殊なタイプの車いすが必要です。2015年のWAFCAI設立から数年間はパートナー団体から購入してきましたが、彼らがインドネシアでの車いす寄贈を終了したため特殊タイプの車いすを寄贈できなくなってしまいました。インドネシアでは、このタイプの車いすを生産するメーカーがなく、海外製は非常に高価であるため手が届きません。そこで、WAFCAIは地元の医療機器メーカーを探し、同じ型の車いすの生産を依頼。しかし、やっと入手できると思った矢先にコロナの影響でこのメーカーが倒産しました。

しかし、その後も諦めずに解決策を模索し続け、「アダプティブシート」の研究開発を始めました。このシートの開発にあたり、デンソー・インドネシア、YDBA※1から支援を受け、ミトラ・マンディリ・センター※2の中小零細事業者支援プログラムに申請しました。それによりアダプティブシートの生産が実現し、2022年4月に本格生産を開始する予定です。



アダプティブシートとは？

入手しやすいスタンダードタイプの車いすに装着して座位保持車いすとして使うことができるシート

※1 YDBA (Yayasan Dana Bakti Astra : アストラ・チャリティ・ファンド)

※2 ミトラ・マンディリ・センター (マンディリ銀行グループ)

事例紹介

アンガくんの場合 (ポゴール県在住・10歳) 2022年2月に寄贈

アンガくんは昨年家の周りで遊んでいて切れた電線を触ってしまうという不運な事故で体の一部にやけどを負い、**右手・脚が麻痺**してしまいました。その後事故の前と同じように学校に通うため、県の地方社会福祉局に車いすの申請をしましたが、彼の体に合う車いすはありませんでした。

2021年12月に県地方社会福祉局からWAFCAIに連絡があり、2022年2月に**アンガ君の体に合った車いすを支援**しました。寄贈後は車いすをとても大切に使用しており、WAFCAIの支援者への感謝の気持ちをいつも言葉で伝えてくれます。この車いすのおかげで、**アンガ君は無事に再び学校に行ける**ようになりました。



車いすサービス提供事業の評価活動

インドネシアでは、2020年度に車いすを支援した障がい児200名以上にアンケート調査を行い、100名から回答を得ました。2022年3月の再調査では63名しか回答を得られなかったため、比較分析ができませんでした。(インドネシアでは車いすクライアントが頻りに携帯番号を変えるため、本人や家族との連絡が途絶えるケースが追跡調査を困難にしていることも課題となっています。) 今後は直接現地へ赴くなど追跡調査のあり方をさらに検討し、事業の質的向上に必要なデータを蓄積していきたいと考えています。

まず、前年度、今年度の調査で**全体的な傾向に大きな違いはありませんでした**。興味深いのは、障がいを理由に日常生活や移動に困難を抱えながらも、「将来について・生活の中で楽観的に感じる」、「自分自身に自信がある」、「自分自身を大切にしている」といった自己認識において、6~7割の回答者が「非常に／かなり感じる」と前向きな回答をしていることです。インドネシアの多様性を認め合う価値観や人々の性格などが関係しているかもしれません。その他に、「家族や他者からの支援」、「住んでいる場所の安全性や快適さ」、「社会福祉サービス」、「痛みの軽減」などで満足度が高い傾向が見られました。一方で、「必要に見合ったお金」、「余暇活動の機会」、「勉強や就労の機会」などの項目で過半数が「まったくない／ほとんどない」と回答しました。教育支援活動や余暇としての車いすダンス活動にさらに力を入れ、取り組んでいきたいと思えます。

Column WAFCAI WAFCAI スタッフの1日

7:30 週に1度のサービスセンターDAY
 \35km! /
 事務所→サムットプラカーン県特殊教育センターへ
 (車いすサービスセンターを併設しています)
 最近ではコロナの影響で渋滞がない!
 スタッフ イウさん 理学療法士 ルンさん

7:30 水・木曜日の車いすアセスメント&フィッティング DAY
 車いす提供の準備
 倉庫には車いすが200台くらい入ります
 アセスメント用のシート、車いすを持ってクライアントのところまで行きます

8:30 フィッティングをします。
 1人1時間~2時間位かかることもあります
 公民館などの公共のスペースでフィッティングを行います。
 多いときは1日に5件ほど!

12:00 作業再開!
 フィッティング用のクッションやトレイのサイズや形を決め、他スタッフがウレタンや木材を測って切ります。車いすと一緒に梱包して支援先の県特殊教育センターへ発送します。

13:00 ランチタイム!
 イサーン東北料理を食べます!

16:30 作業再開!
 作業再開!

16:30 終業

障がい児教育事業



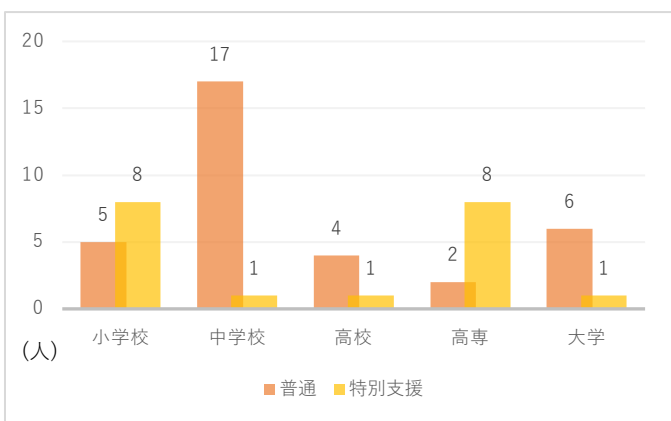
タイ



2021年度は19県で合わせて**52**名に奨学金等を提供しました。新規の奨学生は5名いましたが、コロナ禍によるタイ国内の移動制限でスタッフが直接会いに行けず、学校の先生や保護者の方と相談できないケースもありました。その場合は、SNSのビデオ通話などを利用して丁寧に聞き取りを行い、実情に合ったサポートを心がけました。また、奨学金授与式や能力向上キャンプもオンライン開催とするなど、コロナ禍で迎える2年目は積極的にオンラインを利用して計画通り事業を実施することができました。

奨学生数 52名

学校種別



支援内容(重複あり)



学校に支払う費用
¥516,500



通学にかかる費用
¥396,900



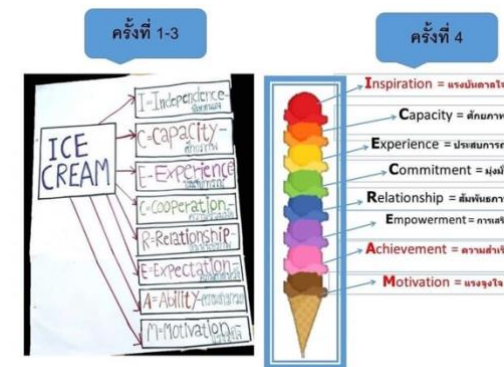
その他
(キャンプなど)
¥739,030

合計 ¥1,652,430

オンライン開催

WAFCAT 奨学生向け能力向上キャンプ

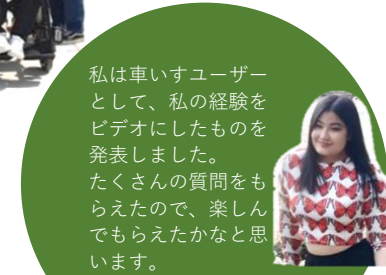
毎年行っているタイの奨学生を対象にした能力向上キャンプを今年はオンライン開催し、奨学生40名、教員28名、保護者7名が参加しました。参加者はゲストトークやメロン農園バーチャル遠足などを楽しみました。また、日本の大学生(車いすユーザー含む)やインドネシアの奨学生数名も一部プログラムに参加し、タイの奨学生たちと意見交換を行いました。



先生と一緒にオンライン参加した奨学生



バンコク近郊のメロン農園から中継



私は車いすユーザーとして、私の経験をビデオにしたものを発表しました。たくさんの質問をもらえたので、楽しんでもらえたかなと思います。

キャンプに参加した山口真有美さん (WAFCA インターン生)

奨学生が通う学校の「みんなにやさしい



バリアフリー化支援 in 東北部コンケン県 学校づくりプロジェクト

2020年度に車いすと自宅のバリアフリートイレを支援した兄弟の弟ベンツ君(11歳)は、2021年5月に近所のバーン・ドンタッラー小学校の5年生に編入しました。

今年度は学校と協力して、校内にバリアフリートイレを建設しました。お兄さんのミン君も自宅でリハビリ続けて元気に過ごしています!

学校とのミーティングに参加したベンツ君とお母さん



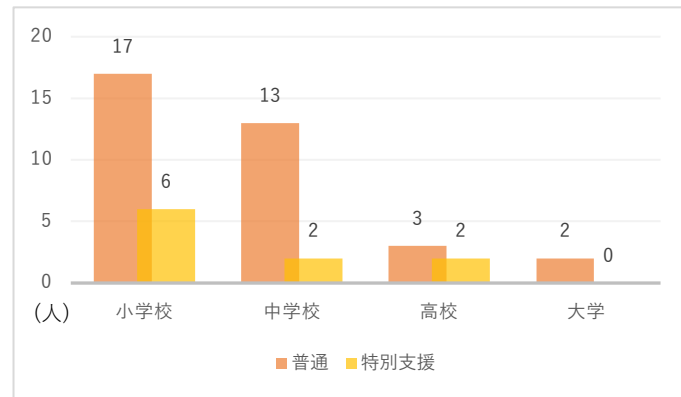
増築したバリアフリートイレ建屋 工事費は175,000円

インドネシア

2021年度、インドネシアで計**45**名の障がいのある子どもたちに奨学金を届けました。

WAFCAIの車いすクライアントの中から、毎年奨学生を選考し、必要に応じて一人当たり約13,000~30,000円で通学をサポートしています。

■学校種別 \ 奨学生 45名 /



■支援内容 (重複あり)

41人

学校に支払う費用
¥422,505

37人

通学にかかる費用
¥199,665

29人

その他
¥187,830

合計 ¥810,000



▶ WAFCAIスタッフが訪問してプカシ市
フィリアル特別支援学校に奨学金を届けた際

■事例紹介

アウリア・アグスティンさんの場合

(プカシ県在住・14歳)

アウリアさんは脳性麻痺のため両脚の筋力が弱く、痙攣もある女の子です。2015年に車いす、2019年からは奨学金の支援も受けて学校に通っています。支援により無事に小学校を卒業し、中学へ進学することができました。

2021年の奨学金200万ルピア(約17,000円)は授業料、教科書、制服、文房具、カバン、靴、おむつ、ミルク、リモート授業用のインターネット代などに使いました。奨学金は彼女にとって勉強をがんばるためのモチベーションで、自信もついたので、そんな彼女の姿を見て、お母さんは子どものことを誇りに思うと言っています。

家族全員がご支援にとっても感謝しています。

奨学金が勉強の
モチベーションアップに
つながっています!



2019年



2021年

中国

2013年から交流を続けている雲南特殊教育職業学院(以下、特職院)は、1991年に華夏中等專業学校として昆明に設立され、障がいのある学生たちが学科と職業専科を学んでいます。2019年に現在の名称となり、健常者の入学もスタートしました。生徒の約3割が少数民族で、約7割は貧しい農村部出身、そして約3割が障がい者です。

2021年度、成績優秀で経済的に困難な学生50名に対し、一人当たり500元(約8,300円)の奨学金支援を計画していました。しかし、2022年3月コロナの再拡大に伴いすべての授業がオンラインになり、奨学生の選考と授与式を延期しました。



董亮校長と榎田前理事長(2019年9月)

2021年度の流れ

- 2021年11月 2019年9月に特職院と交わした覚書を1年延長
新たな協定期間は2021年9月24日から2022年9月24日
- 2021年12月 特職院よりWAFCAへお礼状が届く
- 2022年2月 WAFCA会員の董剛様のご協力で現地コーディネーター張傑様に送金
- 2022年3月 特職院より奨学金受領書が届く
- 2022年6月(予定) 職職院の担任、学生支援課により奨学生50名を選出
- 2022年7月(予定) オンライン贈呈式を開催

※中国の学校は、9月に入学し翌7月に卒業をする学年暦です。



2021年度 奨学金受領書

\ 特職院 海外事業担当の何婷先生よりメッセージ /

私は2021年7月に雲南大学を卒業し、同年10月から特職院の職員として働いています。2022年4月現在、学院ではパンデミックの予防と管理をし、安全に仕事をしています。寮生も含めて授業はすべてオンラインで行っています。

奨学生の選考と贈呈はパンデミックにより延期中ですが、学生助成担当の職員が担任や本人と相談しながら受給資格を確認しています。

寄贈業務は確実に行っていますので、ご協力とご理解をよろしくお願いいたします。



▶ 感染防止対策のため職員室でマスクをして打合せをする教員



▶ 学生助成支援(Student Grant)の担当職員

新型コロナ対策障がい児緊急支援

実施期間：2021年5月～2022年4月

WAFCA が支援する障がい児たちの多くは貧しい農村部や都市部のスラム地域で生活しています。もともと家族の収入が不安定な上に、障がいによっては医薬品、リハビリ訓練、特別な栄養食などの出費がさらに家計を圧迫しています。実際、2021年にタイ 23 県で調査した 271 世帯の障がい児の家族のうち、45%が日雇いの仕事、25%が屋台などの物売り、10%がタクシー運転手や宝くじ売りなどで、2020年以降のパンデミックにより、職を失ったり収入が減ったりするケースが相次ぎ、さらに生活に困窮する状況が続いています。

クラウドファンディング
実施結果

募集期間

2021年5月31日▶8月6日

用途

半額ずつタイ・インドネシア事務局へ送金
各国のスタッフが現地へ調達した救援物資や現金を配布

支援者数

319 名

支援金額

¥2,519,000



※上記寄付に加え三菱 UFJ 銀行刈谷支店様より 25 万円のご寄付をいただき、インドネシアへ追加で送金しました。

インドネシア



2021年11月～2022年3月

支援実績 **11** 都市 **372** 世帯 支援総額 **1,509,500** 円



インドネシアでは、2021年7月がデルタ株による感染者数がピークで、2022年2月からはオミクロン株による感染が再拡大しました。パンデミックによる自身の健康面への不安だけでなく、突然家族・親戚・友人を失った多くの人たちの痛みは計り知れません。また、PPKM※により雇用が守られ、安定した収入のある人はごく一部であることを知らしめることとなりました。障がい者が最も脆弱で、健康、アクセシビリティ、経済、教育などの様々な面で困難があり、問題の深刻さがさらに強く感じられました。

※
社会制限措置
PPKM

インドネシア政府は PPKM と呼ばれる社会制限措置を設定しました。この措置は感染を抑える一方で、教育および経済活動に直接大きな影響を与えました。とくに経済的に貧しい世帯は、2021年から2022年初めの PPKM の実施中に、主要な収入源/仕事の損失を経験しています。障がい者の多くも同様のダメージを受けています。

日本の支援者の皆様のおかげで WAFCAI はこのように生活に困難が生じている障がい者の人たちに緊急支援というかたちで食糧支援をすることができました。何百人もの人々の苦しみや痛み、負担を軽減することができました。支援を受けた人々は皆、口をそろえて WAFCA の支援者への感謝を述べていました。

事例紹介

ギランくんの場合 (デポック在住・4歳)



ギランくんは脳性麻痺の男の子で、お父さんは乗合バスの運転手をしています。運転手の収入は少なく、もともと生活



は厳しい状況でした。さらにパンデミックにより収入が減って状況が悪化。バスの乗客が減り収入がゼロになったこともありました。そんなギラン君一家は、車いすと食糧を支援してくれた WAFCA と WAFCAI に感謝の気持ちでいっぱいです。

ラチャヤポーンちゃんの場合



(チャチュンサオ県在住・11歳)

ラチャヤポーンちゃんのお母さんは自宅で洗濯屋をして家計を支えています。コロナで収入が減ってしまいましたが、支援金 4,000 バーツ (約 14,000 円) で壊れていた洗濯用の道具やアイロンを買い替えることができました。徐々に売り上げも元に戻りつつあります。日本からのサポートにとっても感謝しています。



タイ

支援実績 **23** 県 **131** 世帯 支援総額 **1,259,500** 円



2021年12月3日、タイ中部にあるパトゥムタニー県特殊教育センターで合同贈呈式を開催しました。会場にはパトゥムタニー県をはじめ、3県の特殊教育センター職員が出席し、直接現金や物資を受け取りました。残りの 19 県はオンラインで式典に参加しました。

今回の支援金をどう活用したか追跡調査したところ、子どものおむつやミルク、医薬品や日用品の購入に充てたケースがもっとも多く、次いで病院へ行くための交通費、家賃・光熱費でした。さらに、屋台で食べ物を売るなど新しい商売を始めるために投資して日常的に収入が得られるようになったケースもあり、長らくコロナ禍でも前向きにたくましく生きる障がい児と家族の実態が明らかになりました。

WAFCAI から
センターに支援金を
振り込み



センター職員が
自宅訪問時に
物資を手渡し



センター職員が
記録写真を撮って
WAFCAI に報告

車いす病院

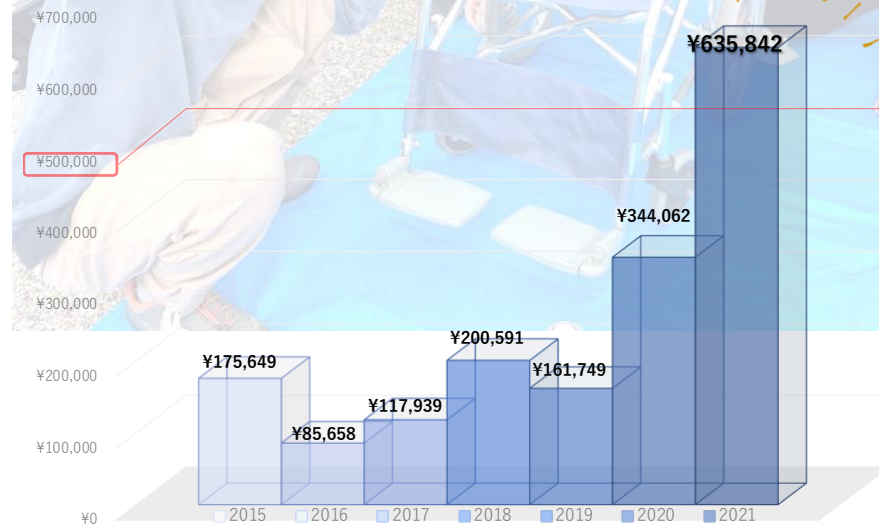
収益事業としての役割を担う車いす病院

ついに純利益 60 万円を達成しました

車いす病院では、2021 年度 50 万円の利益を目標に活動を行ってきました。

丁寧な作業とたくさんの方々にご利用いただけたおかげで 635,842 円の利益を生み出すことができました。

この収益はタイ・インドネシアの車いす寄贈費として大切に使われます。



企業からのご協力を得て

日進医療器株式会社

日進医療器株式会社様にいただいた 151 台の車いすを車いす病院で点検・整備をし、インドネシアに発送することができました。22 年度にインドネシアの各地に必要な子どもたちに届けられます。



株式会社松本義肢製作所

株式会社松本義肢製作所様にいただいた子ども用の中古車いす 68 台を車いす病院で点検・修理・清掃をし、タイに発送することができました。22 年度にタイの各地に必要な子どもたちに届けられます。



車いす病院お試しキャラバン

車いす病院では、500 円で車いすの 15 項目の点検と清掃をおこなっています。車いす病院のクオリティを体験してもらい、継続して利用してもらうため 500 円のコースを無料で施設に出向いて行う「車いす病院お試しキャラバン」を 20 年度から実施しています。21 年度は 5 施設を訪問し、点検と清掃を行いました。



ボランティアさんの声

日々技術を上げ活動に取り組むボランティアさん。
2020 年度末の 18 名から 28 名に増え、
アジアの障がい児のために活動を広げています！



ボランティアリーダー
小田 秀一さん

会社員時代から教育支援基金で WAFCA の障がい児を支えてきました。
定年退職と同時に車いす病院のボランティアを開始。
アジアの子どもたちの笑顔のためにと思うと、やる気が出てきます。

新しい仲間がいて、
これまでと異なる居場所ができています。
車いす病院に入って、
今まで見てきた
世界とは違った世界が見えてきました。

車いす病院ボランティア、
やって良かった！

各人の得意とするところを、
車いす病気で他の WAFCA 活動でも
活かせる機会があったら
面白いと思います。

顧客からの喜びの声で
やりがい、
モチベーションが
上がります。

これからもどんどん
施設に訪問して、
利用者さんと
交流できると嬉しいです。



広報・啓発活動



■ 絵本プロジェクト



「心のバリアフリーが学べる絵本を世界の子どもたちに届けたい！」という思いで、愛知淑徳大学の学生さんと絵本制作と読み聞かせに取り組みました。絵本の制作費はすべてクラウドファンディングで集め、学生たちの熱い想いにたくさんの人から共感を得て、当初の目標金額を大きく上回る 395,000 円をご支援いただき、絵本 100 冊を制作することができました。

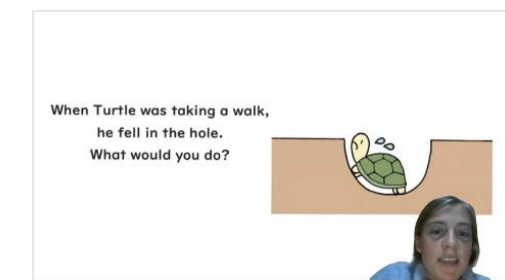
制作した絵本は愛知県内の幼稚園、保育園、こども発達福祉センター、小学校に配送いたしました。また、英語・タイ語・インドネシア語・ベトナム語に翻訳をしたものを電子書籍にして海外の子どもたちにも届けました。

障がいには知らないとどうしたら良いかわからないものです。時には誤解を招き、人を傷つけてしまうかもしれません。「こまっているひとがいたらどうする？」の絵本を読んで、小さなお子様でも楽しみながら、心のバリアフリーの理解を深めてくれることを願っています。

オンラインイベント

「絵本の読み聞かせ会 ～多言語で絵本を楽しもう～」を開催しました

刈谷市国際交流協会と共催で、5 か国語で絵本読み聞かせと、海外の手遊びをするオンラインイベントを実施。たくさんの親子にいろんな国の言葉や文化を楽しんでもらうことができました。



■ かりや SDGs マルシェ



日頃、海外の支援活動を通じて SDGs に取り組んでいる WAFCA ですが、今回、日本事務局がある愛知県刈谷市の地域の皆さんに WAFCA を知っていただき、SDGs の支援の輪を広げるため、初の試みとして「かりや SDGs マルシェ」を開催しました。

また飲食物販ブースでの売上は全体で 342,760 円(平均 1 店舗 26,366 円)となり、「刈谷市内で活動する団体及び事業者を集め、住民の方に活動や製品を手にとってもらう機会を創出する」という目的も達成することができました。



SDGs に関連した
飲食・物販ブース



スタディー
クイズラリー



フードドライブ



アートプログラム

■ 国際理解授業

近年、学校などの教育現場でも「SDGs」や「国際理解」について子どもたちが学ぶようになりました。WAFCA も地域の学校で授業をさせていただく機会がありました。アジアの障がい児のことを身近に、そして自分ごととして考える第一歩になるように授業を実施してきました。

東浦町立片葩小学校では、小学 6 年生 90 人を対象に、国際理解教育の講師をさせていただきました。片葩小学校は、毎年車いす寄贈のためのプルトップを全校で集めてくれています。アジアのクイズや現地の動画を見ることを通して、遠く離れた国へ親しみを持ってもらっているように感じました。

21 年度 授業実施校
東浦町立片葩小学校 / 碧南市立新川小学校 /
愛知県立刈谷東中学校 / 愛知県立東海商業高等学校 /
デンソー工業学園 / 愛知県立刈谷北高等学校 /
桜花学園大学 / 愛知淑徳大学



子どもの感想



車いすを受けとった障がい児の写真を見て、すごく体が小さくて助けたいと思った。
プルトップを今まであまり集めなかったけど、捨てないでもっと集めようと思う。

ファンドレイジング

ONLINE STORE



■ チャリティー商品

タイでは戦争や事故または薬の副作用により、足に障がいがあり、外に仕事に出られない人たちがいます。そんな彼らは自宅で「ものを作る」ことで、収入を得ています。ワイヤーやビーズ、ガラスを使用して、ユニークで可愛い雑貨を作っています。

WAFCA では、タイ・インドネシアの障がい者が心を込めて作った雑貨をチャリティー商品として販売しています。チャリティー商品の売り上げはすべて、アジアの障がい児支援に使用させていただきます。

**皆さまのお買い物が、
国際協力に繋がります。**

2021年度の売り上げ
1,055,710 円

ワイヤーアートを作る
ミーさんからのメッセージ



以前はただずっと家にいるだけで仕事や夢のことなど考えもしませんでした。今は仕事をもつことができ幸せです。

お客さまの声

可愛い商品を買って自分もうれしいし、遠く離れた国の誰かの力にもなれると思うとさらにハッピーな気持ちになります。

ビーズキーホルダー

¥300



小さいお子様にも人気の商品！他にもいろんな動物があります。タイの職業訓練学校でビーズアートを学んだ障がいのある方が作っています。

シュシュ

¥300



インドネシアの伝統的な布「バティック」を使用しています。インドネシアのウィスマチェシア財団の障がいのある方が作りました。

車いすフィギュア

¥500



ワイヤーで作られたミニチュア車いすが可愛い！♡ WAFCA の仲間なら一つは持っているほしい商品です。タイの障がいのある方が作りました。

■ チャリティーイベント

2021年度から WAFCA では、ファンドレイジング事業の一環として様々な「チャリティーオンラインイベント」を開催してきました。イベントの参加費はアジアの障がい児へ車いすを寄贈する資金にさせていただきました。オンラインイベントは資金調達としてだけでなく、WAFCA のサポーターの皆さまと繋がれる楽しい交流の場ともなりました。

2021
9/4

車いすユーザー 1日密着

WAFCA インターン生の3人が企画・運営。インターン生と現地スタッフが協力して作成した、タイ・インドネシアに住む「車いすユーザーの密着動画」を参加者の皆さんと鑑賞しました。コロナ禍で現地に訪問することが難しいなかで、アジアに住む障がい児たちのリアルを知ることができました。



収益 **17,000 円**

2022
2/23

WAFCABA

立場や年齢にこだわらず、みんなで集い、交流や意見交換を通じて、活動の輪を広げていくイベント「WAFCABA」。2019年に1度対面で実施して以来、実施できずにいましたが、念願の第2弾を開催することができました。インターン生や参加者の皆さんがどんな想いで WAFCA に関わっているのかを、事前に郵送したアジアフードを食べながら語り合いました。



収益 **30,000 円**

2021
12/18

WAP 同窓会ツアー

和歌山大学の学生が運営する国際協力団体「WAP」の現役生・卒業生を対象にした現地ツアーを実施。WAP は2013年から毎年、夏休みにタイに渡航し、WAFCA と協働で車いすを寄贈してきました。コロナで直接車いすを寄贈できなくなってからもオンラインで支援活動を継続してくれています。当日は新規の車いす3台の寄贈式や、WAP が過去に車いすを贈った障がい児へインタビューを実施しました。



収益 **80,500 円**

株式会社デンソー社員対象

100円未満募金

2021年度4月より、デンソー社員の皆さんを対象に「100円未満募金」の募集を開始しました。「100円未満募金」とは、社員の皆さんの給与・賞与の100円未満を募金額とし、翌月の給与から天引きする制度です。募金はタイ、インドネシア障がい児の車いす寄贈費に充てさせていただきます。

12月には寄付月間※の賛同企画としてキャンペーンを行い、デンソー

本社および幸田・阿久比・大安製作所にて対面募集を行いました。3月までに **864** 人の方に登録いただき、合計募金額は、**200,386 円**となりました。その結果、タイ、インドネシアの障がい児8人に車いすを贈ることができました。



※寄付月間とは、民間非営利組織(NPO)、企業、大学、行政などで寄付に関わる関係者が幅広く集い「欲しい未来へ、寄付を贈ろう」を合言葉に毎年12月の1ヵ月間、全国規模で行う寄付の啓発キャンペーンです。



WAFCA の仲間たち

WAFCA は **2,544** 名（2021 年度末時点）の正会員・賛助会員の方々に支えられて活動しています。
今回はその中から 3 名の方に代表してメッセージをいただきました。

同じ大学に勤める寺田恭子氏（理事長）から紹介をいただき、2018 年に WAFCA に入会しました。私は肢体不自由児の保育・教育を中心に教育・研究をしております。WAFCA の活動を通して国内外の子どもたちへの支援に携わることによって、私自身の学びを拡げることができています。

2020 年度からは WAFCA と大学生の共同企画である「絵本プロジェクト」にも携わらせていただきました。社会全体の障害理解に役立てたいという大学生の想いがたくさん詰まった素敵な絵本ができあがりました。私のゼミでは、絵本と車いすをもって保育所や小学校に出かける準備を進めています。絵本を活用し、地域の子どもたちと一緒に障害について考える機会を広げていきたいと計画を立てているところです。



正会員
小柳津 和博さん



賛助会員
片岡 正衣さん

私が会員になったきっかけは、バスケットボールの選手時代に応援していた伊集南さんが WAFCA の活動をされていると知り、少しでも力になりたいと思ったからです。バスケ観戦が好きで、伊集南さんが現役の時にファンでよく観に行っており、引退されてからは試合会場で何度かお話をさせて貰いました。

WAFCA のチャリティ商品を購入しました。特に気に入りの商品はマスクです。自転車通勤には最適です。バイク等の置物はリビングに飾っています。トゥクトゥクは動くのでたまに孫が遊びます。

家族で車いすの生活をしている者がいるので、少しでも多くの車いすが必要な方に渡ればと願っています。

私は 2020 年の夏に WAFCA のボランティアとして活動を始めました。私は元々韓国のアイドルグループが好きで、韓国、中国、インドネシア人などのファンの方々と交流する中で、アジアの国々への興味をもち始めました。そんな時 WAFCA と出会い、実際に WAFCA から車いすを受け取った子どもたちの写真やメッセージを見て、車いすを通してこんなにも沢山の子どもたちがそれぞれの夢に向かって学び、成長しているんだ、と感銘を受けました。そこでボランティアとして少しでもその夢の実現の手助けをしたいという思いで活動に参加しました。今はコロナ禍で実際に現地訪問や、子どもたちとの交流ができない状況ですが、そんな時だからこそ、自分にできることを見つけ WAFCA の活動に精一杯貢献していきたいと考えています。



学生会員
植田 まさみさん

WAFCA Youth Group

WAFCA の目的と活動に賛同し、WAFCA の一員として、主体的にアクションを起こす 10 代～20 代のグループが発足しました。
コロナ禍で「互いに行き来する face to face の交流」は厳しい中、未来を担う若い世代が国内でアジアの障がい児の課題解決に積極的に参加できる場を提供していきます。



北村翔一 山本羽奈 小川晶子 山口真有美 水谷成美 佐々木唯乃 手坂菜々子
下之園拓望 大野真凛 野々山綾乃 植田まさみ 佐々木悠人 藤田侑里 吉川友菜
齊藤舞 物部遥花 小川絢子 上野妙子 太田峻暉 深谷国弘 井本有哉

オフィシャルサポーター



オフィシャルサポーター
伊集南さん

筑波大卒、デンソー入社
(デンソーアイリス所属)
同年、バスケットボール新人王獲得
2019 年 3×3 日本代表に選出され、
アジアカップ (ベスト 3) ワールドカップ出場
2020 年にデンソーアイリス引退。
現在は総務部スポーツプロモーション室勤務

オフィシャルサポーターの伊集です。
就任 2 期目、今季はなるべく **面着の機会を増やしたい**とデンソースポーツの会場で WAFCA チャリティーグッズを販売しました。
デンソーアイリスの刈谷大会、エアリビーズの西尾・岡崎大会にて出展させていただきました。今年度のイベントで **191,300 円** を売り上げ、**オリジナルマスクは 966 枚販売** できました。ご尽力いただいた関係者の皆さま本当にありがとうございました。

コロナ禍でまだ先が見えない中、今後の活動が不確定な部分もございますが、**新しい取り組み(アイデア)を模索しながら WAFCA メンバーと活動していきたい**と思います。
引き続き、皆さまのお力をお借りしながら、WAFCA を盛り上げたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

WAFCA で働くスタッフ紹介

日本事務局長 熊澤友紀子

2021年5月以降タイとインドネシアで新型コロナウイルスの感染が急拡大し、インドネシアチームの中にも感染者が出て、悲しいことに命を落としたメンバーもいました。文字通り命の危険と隣り合わせで奮闘している現地スタッフを日本から応援することしかできない状況が続いています。そんな厳しい状況の中でも「障がい児のモビリティと生活の質の向上を目指して、ひとり一人に寄り添った支援を行う」という共通の使命のもと試行錯誤する各国チーム、その先で救済を待っている子どもたちを「国を超えて結び付け、WAFCA グループ全体でサポートネットワークをつくる」、その中心的な役割を WAFCA が担っていけたらと思っています。2021 年度ご支援くださったすべての方々は WAFCA のサポートネットワークの一員です。温かいお気持ちに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



プロジェクト担当 恒松奈於

2021 年度はオンラインの取り組みが充実した1年でした。海外現地の障がい児たちと日本国内のサポーターの皆さまが新しい形で繋がり、コロナの厳しい状況下でも、笑顔で交流する姿を見てこの仕事のやりがいを感じました。これからも場所や世代を超えた WAFCA の輪をどんどん広げていきたいと思っています。



会計・会員管理担当 皆川理恵

2021 年度もコロナの感染拡大が心配された年であり、オンラインでどのように WAFCA の活動を伝えればよいかなど、試行錯誤していました。時には、デンソー、グループ会社のご協力で、対面で PR させていただくこともできました。「与えられた環境で、できることを行う大切さ」を学ぶことができました。ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。



広報・事業収入担当 近藤みなみ

初めて開催した「かりや SDGs マルシェ」や、たくさんのメンバーに支えられている車いす病院を通して、地域の方にも WAFCA のことを知っていただく機会が増えました。今後さらに共感を拡大し、仲間と共に歩いていく WAFCA にしていきたいので、皆様どうぞよろしくお祈りします。2021 年度もありがとうございました。



中国コーディネーター 張傑

皆さん、お元気ですか。本当に久しぶりです。お陰様で私は元気です。新型コロナウイルス流行は2年になりました。雲南省はベトナム、ミャンマー、ラオスに近いので、新型ウイルスが入りやすいですが、政府や医療関係者のおかげで国境地域のウイルスはコントロールされています。これまで昆明で数例の感染者が出て市民を驚かせましたが、幸いにも感染は広がらなかった。今もマスクをして、外出を自粛しています。3 回目のワクチン接種をした市民はおそらく 95%以上です。去年 12 月、私は 60 歳で正式に定年退職しました。でも、病院で漢方医の診療の仕事を続けています。今は体の調子はまあまあですので、まだ何年か仕事を続けるつもりです。中国はウイルス感染ゼロ政策を実行しており、外国のお客さんが中国に来るには自費でホテルに 2 週間隔離しなければ社会に入ることができず、個人にとってコストは高いです。コロナが終息したら、また自由に海外旅行ができます。その時になったら、私たちはまた会ってお酒を飲みましょう。



タイ事務局マネージャー ウィング

2021 年度もローカルパートナー（特殊教育センター、学校、地域や保護者）の協力を得てタイの障がいのある子どもたちに最適な車いすを提供することができました。日本の皆さまに感謝申し上げます。皆さまのご支援がなければ、私たちは計画通りに活動することはできませんでした。タイでは多くの子どもたちが生活の質の改善を必要としています。私たちは彼らにとって最適な解決策を見つけるために、これからも活動を続けます。ご協力よろしくお祈りします。最後に日本の皆さまの幸福と健康をお祈り申し上げます。Khub Khun Kha & Thank You!



WAFCAI 事務局長



ビナイ・シリナコーン

理学療法担当



シリラット・クンタイ
ルン

広報・資金調達担当



ラチャノン・クエジン
イウ

会計担当



ポンダ ナット・チョクニツガモ
ンプレー

インドネシア事務局マネージャー レオナルド

この数年私たちはパンデミックによって厳しい状況に直面しています。とくに 2021 年はデルタ株の感染拡大により多くの車いすクライアントが家族を無くし、仕事を失うなど大きな影響を受けました。そんな状況の中でも、日本の皆さまの支えのおかげで車いす支援、教育支援、コロナ対策支援など WAFCAI の活動を続けることができました。中でも一番嬉しかったことは、世界障がい者デーに合わせて WAFCAI グループで開催した車いすダンス・グローバル・フェスティバルにインドネシアの車いすクライアントや奨学生たちが参加できたことです。WAFCAI グループ全体がまるで家族のような繋がりと友情があったからこそ実現したのだと思います。WAFCAI の関係者、インドネシアの障がい者を代表して、心からお礼を申し上げます。またインドネシアでお会いしましょう！



WAFCAI 事務局長



アリフ・ダヌー・プラヨギ

車いすサービスプロバイダー



アグス

ソーシャルワーカー



エフィ

経理担当



リヤ

単位：円

科目		2021年度			2022年度	
		計画	実績	計画達成率	計画	対前年増減率
収入	会費	15,150,000	14,173,550	94%	14,500,000	102%
	寄付金	27,570,000	30,874,613	112%	26,895,000	87%
	助成金	0	50,000	0%	0	0%
	事業収益	1,210,000	1,902,979	157%	1,640,000	86%
	その他収益	995,000	2,252,623	226%	941,000	42%
収入合計		44,925,000	49,253,765	110%	43,976,000	89%
支出	事業費	36,669,750	38,533,100		40,446,704	
	管理費	7,226,250	7,880,618		6,661,800	
支出合計		43,896,000	46,413,718	106%	47,108,504	101%
収支差額		1,029,000	2,840,047		-3,132,504	
法人税		21,000	21,000		21,000	
前期繰越正味財産額		58,484,861	58,484,861		61,303,908	
次期繰越正味財産額		59,492,861	61,303,908		58,150,404	

I. 資産の部		
流動資産	現金・預金	38,512,949
	青少年交流基金特定資産	1,000,011
	前払金	60,199
	貯蔵品	179,940
	繰越商品	210,087
流動資産計		39,963,186
固定資産	有価証券	20,296,007
	商標権	416,930
	車両運搬具	1,189,115
固定資産計		21,902,052
資産合計		61,865,238

II. 負債の部		
流動負債	前受金	0
	未払金	127,749
	預り金	433,581
流動負債計		561,330
固定負債	—	0
固定負債計		561,330
III. 正味財産の部		
前期繰越正味財産		58,484,861
当期正味財産増減額		2,819,047
正味財産計		61,303,908
負債及び正味財産合計		61,865,238

収支計算書、貸借対照表は、会計帳簿の記載金額と一致し、認定 NPO 法人アジア車いす交流センターの収支状況及び財政状態を正しく示していると認める

金子 尚弘
米光秀司

財務に関する分析

2021 年度

2020 年度に引き続き新型コロナウイルスの影響を受けた一年でした。収入は新型コロナ対策寄付金、車いす寄贈指定寄付金などが予算を上回ったことに加え、予算では計上していなかったデンソーはあとふる基金の助成を受けたこともあり予算を上回る結果となりました。

事業活動ではタイ、インドネシアを中心に車いすの寄贈などの支援を継続するとともに、新型コロナ対策としてもタイ及びインドネシアの障がい児やその家族への支援を実施しました。結果として正味財産増減額は 2,694 千円となり、予算を 1,486 千円上回りました。

2022 年度

2022 年度は車いすの寄贈をタイでは前年度と同様の 100 台、インドネシアでは前年度を上回る 240 台の寄贈を計画しています。また、国内事業でも車いす病院の規模拡大なども計画しています。

当期は経常収益を 43,776 千円（前年比△5,477 千円）、経常費用を 47,108 千円（前年比+695 千円）、正味財産増減額（前年比△6,151 千円）を計画しています。

■ 支援企業

団体正会員

株式会社デンソー／あいおいニッセイ同和損害保険株式会社／エコランド有限会社／カリツー株式会社
デンソーテクノ株式会社／デンソー太陽株式会社／デンソー労働組合／トヨタ L&F 中部株式会社
株式会社 R a n d T カンパニー／株式会社 UACJ Marketing & Processing／株式会社アイビックス／株式会社クイックス
株式会社デンソーウェブ／株式会社デンソーウェル／株式会社デンソーエアクル／株式会社デンソーエスアイ
株式会社デンソーエムテック／株式会社デンソーエレクトロニクス／株式会社デンソーセイビ／株式会社デンソーダイシン
株式会社デンソートリム／株式会社デンソーファシリティーズ／株式会社デンソープレステック／株式会社デンソーリマニ
株式会社デンソーロジテム／株式会社デンソーワイズテック／株式会社デンソー郵船トラベル／株式会社マキノ
株式会社ヤマイチプライメタル／刈谷紙器株式会社／京三電機株式会社／暁輸送株式会社／社会福祉法人太陽の家
松栄運輸株式会社／石川管工株式会社／赤門ワイレックス株式会社／浜名湖電装株式会社／株式会社八神製作所（順不同）

団体賛助会員

伊藤精工株式会社／株式会社デンソー コアスキル開発部 技能人材開発室 DNA 研修課
株式会社デンソーサービス沼津／株式会社デンソーユニティサービス／株式会社デンソーワイパシステムズ
車椅子ツインバスケット岐阜エクスプレス／寿金属工業株式会社／日本福祉大学／スマイルひねる会/
株式会社モビリティイノベーションテクノロジー（順不同）

チャリティ自動販売機協力企業

株式会社アベックス（設置 株式会社デンソープレステック）、株式会社 PS ビバレッジ（設置 株式会社クイックス、WAFC）
サントリービバレッジソリューション株式会社（設置 日進医療器株式会社、公盛工業株式会社）
株式会社シェフランチ（設置 株式会社デンソーエアシステムズ）